

第5学年2組 体育科授業案

授業者 蔵地 孝昭
場所 体育館

1 単元名 みんなでつないで「1・2アタック！」(ネット型ボール運動)

2 単元の目標

- ・バレーボールについて、運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができる。

【技能】

- ・運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

【態度】

- ・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりすることができる。

【思考・判断】

3 単元について

教材について

ネット型ボール運動は、ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立て、得点することを競い合う楽しさがある。そのため、指導要領解説では、態度として「ルールを守り、友達と励まし合って練習やゲームをしたり、ゲームの勝敗の結果を受け入れたりすること」思考・判断として「ゲームの型の特徴に合った攻め方を知り、簡単な作戦を立てること」などが指導内容の例として示されており、チームメイトとの協力が不可欠である教材である。

特にバレーボールでは、ラリーを続けたり、ボールをつないだりして易しいゲームをすることによって、意欲的に取り組ませる工夫が大切である。さらに、高学年においては、連係プレーによる攻撃やそれに対応する守備がしやすくなるようなゲームへ発展させることで、よりネット型ボール運動の本質の近づくことができると考える。

児童の実態

本学級の児童は、体を動かすことが大好きで、体育の授業に楽しみながら取り組んでいる。「短距離走・リレー」の単元では、長座や腕立て伏せなどの姿勢からスタートする練習や、バトンパスの練習に熱心に取り組み、技術の向上に努める姿が見られた。また「体づくり運動」の単元では、2人組やグループの活動で、自分の体の動きを高めたり、仲間の動きと合わせて活動したりする姿が見られた。

しかしながら、ここまでの学習で、児童同士が教え合ったり、協力して何かを達成したりする場面はあまり見られなかった。その原因として、授業において、ゲーム形式にして競争原理を導入すると、勝ち負けにこだわってしまう児童が多いことがあげられる。勝ち負けにこだわるあまり、個人プレーに偏り、集団で協力して何かを達成しようとする活動ができていなかったのが現状である。

教師の願い

ゲーム中に解決すべき課題やその解決方法が分からない児童は、ゲームでの攻防の楽しさを味わうことは難しい。特にネット型ボール運動の場合、プレーの役割や発揮するボール操作が異なっている。そのため、解決すべき課題が児童に分かりやすいようにローカルルールの工夫が必要である。

そこで、本実践の終盤に行うゲーム形式授業では、「3人組で進めていく」「セッターはキャッチしてボールを上げてよい」「サーブは両手で下から投げる」といったルールを設定したい。また、「レッスンボール」を採用したことは、バレーボールの醍醐味である「ラリーを続ける楽しさ」を実感させたいと考えたからである。

以上の学習過程のなかで、児童たちがいかにラリーを続けて、得点することができるのかをクラスやチームで考え、自分なりの答えを導き出す姿を期待したい。この答えを、クラスやチーム全体で練り上げる場を設定し、他の児童とかかわり合う中で、自分の考えや技能を深めたり広げたりする力も身に付けさせたい。

4 単元構想 (6時間完了)

○学習活動	◎留意点 ・支援
<p>バレーボールを知ろう①</p> <p>○ 競技の特性を知ったり、ネットの張り方やボールに慣れたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールのラリーって楽しそうだね。 ・支柱の先は重いから、気を付けて準備をしなくちゃいけないね。 ・レッスンバレーボールは柔らかくて使いやすそうだね。 ・ボールを使った運動は楽しいね。 	<p>◎DVD (オリンピックの試合) を見させることによって、バレーボールの特性を感じ取らせる。</p> <p>◎児童でも持ち運ぶことのできる、軽量のバドミントン用の支柱を使用する。</p> <p>◎指先でのボールの扱いをていねいに行うため、ソフトバレーボールではなく、レッスンバレーボールを使用する。</p>
<p>バレーボールの技能を身に付けよう②</p> <p>○ パスの技術を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔よりも下のボールは、手を重ねて下でパスするやり方があるね。(アンダーハンドパス) ・顔よりも上のボールは、両手でつき上げる感じのパスのやり方があるんだね。(オーバーハンドパス) <p>○ レシーブや攻撃の技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールが来たら、上にあげなくちゃいけないね。 ・アンダーハンドパスやオーバーハンドパスで上げられるね。 ・スパイクやフェイントといった攻撃のやり方があるんだね。 	<p>◎導入の時間に「スキルアップタイム」を行うことによって、ボールを使った動きに慣れさせる。</p> <div data-bbox="906 757 1417 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>スキルアップタイム① 2人組でボールを使った運動</p> </div> <p>◎技術的に簡単なアンダーハンドパスから始めることによって、「できる」という実感をもたせる。</p> <p>◎ゲーム形式の授業を見据え、ワンバウンド後にパスする学習を取り入れる。</p> <p>◎レシーブについては、難しい技術であるため、あまり細かい技術にはこだわらず、上がればよい程度に学習させる。</p>
<p>ワンバウンドゲームをやってみよう③</p> <p>○自分のところに来たボールを落としたり、はじいたりしないためにはどうしたらよいのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールの正面に入るといいね。 ・高い位置でボールを触ると上がるよ。 <p>○どうしたら自分のコートに来たボールを、相手コートに返して、得点することができるか、チームで作戦を考える。(本時 5/6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背の高い人をジャンプさせよう。 ・背の高い人に攻撃を打たせよう。 ・ボールを拾うのがうまい人は後ろでとらせよう。 ・ボールを上げる人を決めよう。 <p>○作戦を徹底させて、ラリーをより楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦通りいくと面白いね。 ・ラリーが続くと楽しいね。 	<p>◎導入の時間に「スキルアップタイム②」を行うことによって、基礎技能を向上させる。</p> <div data-bbox="906 1317 1417 1563" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>スキルアップタイム②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパス (直上、4本指、3本指、普通の) ・アンダーハンドパス (直上、低い姿勢、普通の) </div> <p>◎コートを3面作り、1チーム3人組で行うことによって、ボールに触れる機会を増やす。</p> <p>◎固定した2チームを「兄弟チーム」とし、待ち時間も応援したり審判をしたりすることで、ゲームに参加させるようにする。</p> <p>◎ワンバウンド可、セッターはキャッチ可を独自ルールとして設定することによって、ラリーの中でバレーボールのもつ楽しさを見つけさせる。</p>

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・自分のチームの特徴に応じた作戦を選択し、自己の役割を確認することができる。

【思考・判断】

(2) 本時の視点 ～できた・わかったポイント～

本時では、どの作戦を選んだら、ボールを落としたり、はじいたりせず、相手コートに返して得点することができるかをチームで考えさせる。ネット型ボール運動においては、児童たちが自ら作戦を作り上げていくことは難しいと考え、4つの作戦を提示することとした。自分たちのチームにはどのような特徴があって、どのような作戦を選択するとよいのかをチームで考えさせたい。選択した作戦を実行し、得点できたときに、バレーボールがもつ楽しさを実感させたいと考える。

(3) 学習過程

○学習活動	◎留意点・支援 ☆視点に関わって ※評価
<p>○スキルアップタイムを行う。</p> <p>○本時の学習課題を知り、めあてをつかむ。</p>	<p>◎繰り返し行うことで、基礎技術の習得を目指す。</p> <p>◎準備運動は、一律のものを行うのではなく、本時の運動に必要な動きを「スキルアップタイム」として行わせる。</p> <p>◎あまり時間をかけすぎないようにする。</p>
<p>ボールを落としたり、はじいたりせず、相手コートに返して得点するにはどうしたらいいだろう</p>	
<p>○今までの知識をもとに、児童から意見を引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正面に入るとボールが上がるよ。 ・声をかけ合うと、ボールが落ちないよ。 ・助走をつけてボールを打つと、強いボールを返せるよ。 <p>○どの作戦を選んだら、ボールを落としたり、はじいたりせず、相手コートに返して得点することができるか、チームで考える。</p> <p>A 背の高い人がネット前にいてジャンプする。</p> <p>B 背の高い人がネット前にいて攻撃をする。</p> <p>C ボールを拾うのがうまい人がネットの後ろでとる。</p> <p>D ボールを上げる人を決めておき、その人が必ずボールを上げる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦通りに行ったよ。 ・うまくいかなかったから、次はもっと約束事をしっかりしよう。 	<p>◎早く体を動かしたい児童が多いと考えられるため、意見を出させたら、すぐにゲーム形式の学習をスタートする。</p> <p>◎ゲームを区切り、集合させて、作戦を提示する。</p> <p>◎バレーボールの知識が少ない中、作戦を考えさせることは無理があるためモデルとなる作戦を4つ提示し、その中からチームに合ったものを選択させる。</p> <p>◎作戦は複数選択することを認める。</p> <p>☆チームで作戦を考えて選択し、試合を行う中で、得点する喜びやラリーが続く楽しさを実感させたい。</p> <p>※自分のチームの特徴に合った作戦を立て、ラリーを楽しむことができたか。(学習カード・活動の様子)</p>
<p>作戦を立てて、ラリーを続けると、バレーボールって楽しいね</p>	